創刊号

尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース vol.01

cover photo : Masami SAITO

- message：斉藤 正身 全国デイ・ケア協会会長
- gambare Kumamoto：平成 28 年熊本地震への取り組み
- topics：会員数動向、老人保健健康増進等事業
- join & learn：研修参加レポート
- meet our friend：会員施設紹介 南小倉デイケアセンター
- event schedule：平成 28 年度 上半期催事予定一覧
- Pick Up：第 34 回 全国デイ・ケア研究大会 2016 in 千葉

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

message

震災再び、私たちができることは……。

全国デイ・ケア協会 会長　斉藤 正身

デイケアニュースの執筆に取り掛かろうとしている時に、熊本・大分の地震が発生しました。４月 14 日は北九州の小倉で、当協会の顧問、浜村明徳先生に「地域リハビリテーション」のこれからの展開をお聞きしていたところでした。夕食会が終わりホテルに戻る車中で、同乗者の携帯から一斉に地震を知らせるコールが鳴り響き、５年前のあの場面に引き戻されたような錯覚を覚えました。またしても……、という気持ちと、被災された地域の知人や病院・施設、そしてデイケアの事業所の安否を確認する術を探り、ホテルでは断続的に続く余震もあって落ち着かない一夜を過ごしました。翌日には無事に帰宅しましたが、その後の本震によって、このような事態に陥るとは……。

幾度となく繰り返される災害に対して、今回も経験を生かした活動が求められます。特に当協会は JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）を組織する団体の一員としての活動が中心になります。しかしながら、災害は何処でも同じではありません。その地域の特性や災害の種類・程度を十分考慮した行動が求められます。東日本大震災の時には、デイケアのスペースが避難所や事務局、そして入院・入所スペースなど、様々な用途に活用されていました。地域住民の避難所として利用されていたデイケアで、地域の人たちのための備蓄があれば……、という話も聞き、協会で開催される研究大会等では、幾度となくデイケアとしての備蓄の必要性を訴えてきました。私たちデイケアを営む者として、介護保険制度の中だけでなく地域のためにできること、その一つが「地域住民のための備蓄」だと思います。今からでも遅くありません。もちろん今はまず熊本・大分への支援を、そして地域のための生活必需品を準備することをお勧めいたします。

災害に対する心構えやお願いを挨拶とさせていただきましたが、昨年の介護報酬改定を受けて、多くの会員が「活動」と「参加」に目を向けたアプローチを展開しています。その成果が昨年度末の全国レベルの調査や研究結果に明確に示されてきていますので、今年度も引き続き積極的な取り組みを期待しています。頑張りましょう！

この度の平成 28 年熊本地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
また被災地におかれまして、全力で災害対策にあたられている方々に敬意を表し、
被災者の方々が１日も早く普段の生活に戻れますことを心よりお祈り申し上げます。

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

平成 28 年熊本地震

全国デイ・ケア協会の取り組み

全国デイ・ケア協会は JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）の一員として、被災地への支援チームの派遣（会員施設より JRAT の活動として）や JRAT 本部への人員派遣などを通じて、被災地の支援を実施しております。また、本会独自の活動として、被災された会員施設に向けて、支援物資をお送りしています。今後も会員施設の状況に応じて、支援を継続していく予定です。

同時に本協会のホームページにて、JRAT とリンクさせた熊本地震関連情報を掲載しております。災害により被災した要介護高齢者等への対応について、被災者に係る被保険者証の提示等について、熊本地震による社会福祉施設等に対する 介護職員等の派遣に係る費用の取扱いについて、など様々な情報をタイムリーに発信しています。JRAT のホームページと併せてご確認ください。

熊本地震関連情報 → http://www.day-care.jp/image/kumamoto.pdf

ToPiCs

会員数動向

平成 27 年度、20 イベント開催を実現。会員数も 414 に増加。

２月 11 日、東京にて“短時間通所リハビリテーション移行推進セミナー”が開催されました。スムーズな短時間通所リハへの移行は最近のトピックスの中でもひときわ大きな注目を集めています。全国からお集まりになった参加者（73 名）は、今後のリハビリテーションの流れを再確認し、各参加者の所属施設の経営戦略や地域でのあり方を考え将来性を見極めるための絶好の機会になったのではないでしょうか。

このセミナーをもって平成 27 年度の全国デイ・ケア協会のイベントは終了したわけですが、27 年度は例年以上に多くのイベントを開催することができました。その数 20 回（26 年度：７回）、実に多くの方々に参加いただき、それはデイケアの必要度、注目度、そして将来性の高さの表れではないかと考えております。このイベント開催増加の効果は会員数に如実に表れました。3 月 31 日現在で、会員数は大きく増加し 414（個人会員 23 名含）となりました。その内訳は、病院：135、診療所：83、介護老人保健施設：159、特別養護老人ホーム：５、個人：23、その他：９となっております。

本年度も会員の皆様にとって有益なセミナーを企画していきます。ぜひ P.6 のイベントスケジュールをご確認ください。また、入会、イベント参加申し込み等は、ホームページをご覧ください。 → http://www.day-care.jp

ご活用ください

報告書とマニュアルが完成しました。

全国デイ・ケア協会では、平成 27 年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）として「通所リハビリテーションの適切な実施に関する調査研究事業」を行いました。通所リハビリテーションが、効果的・効率的に運用できるよう実態を調査し、調査報告書としてまとめました。また、デイケア（通所リハビリテーション）運営プログラムを幅広く実践の場で生かせるよう「リハビリテーションマネジメント実践マニュアル」を作成しまとめました。ぜひ、ご活用ください。

会員へはすでに配送されておりますが、全国デイ・ケア協会のホームページより PDF をダウンロードできるようになっております。→ http://www.day-care.jp/image/20160401.pdf

イベントレポート

当協会では様々な活動を通じデイケアに関わるすべての方々に有益なイベントを開催しています。ともに参加し、学べる場所。そしてなにより同じ志を持った方々との交流の場でもあります。

■リハビリテーション・ケア合同研究大会 in 神戸 2015

主催団体シンポジウム：介護報酬改訂による大改革の結果と課題。

2015年10月1日に開催されたリハビリテーション（以下リハ）・ケア合同研究大会 in 神戸において当協会主催で、介護報酬改訂による大改革の結果と課題についてシンポジウムが開催された。当協会岡野英樹理事（医療法人真正会）の座長により、シンポジストの近藤国嗣理事（東京湾岸リハ病院）、土井勝幸理事（介護老人保健施設せんだんの丘）、金野時樹氏（善常会リハ病院）の３人に加え指定発言者として斉藤正身当協会会長、浜村明徳小倉リハ病院名誉院長のお二方の、計６人によりデイケアの地域における役割やあるべき姿について多くの示唆に富む議論が行われた。

座長の岡野理事からは、今回の改訂で活動と参加に焦点が当たり、医師の積極的な参画、リハマネ加算の強化、心身機能と活動・参加へのバランスのとれた対応、生活機能に目を向け地域へ橋渡しをすべきこと、などの課題が提示された。近藤理事からは活動を上げるためにスタッフに求められる能力についての指摘があり、また参加については受け皿作りが重要であることや医師の関わり方についてなど多くの示唆があった。更にデイケアは地域のリハセンターとなるべきであると訴えられた。次いで土井理事はリハ専門職の立場から今回の改訂の意義や受け止め方などについて述べられた。今回の改訂ではいかにして医師に関与してもらうかが重要なポイントであり、更にリハマネ－Ⅱのメリットを我々は認識すべきであるとの指摘があった。第三席は看護の立場からの金野氏であった。金野氏は中重度者のデイケア利用の実態とニーズなどについてのケアマネジャーへのアンケート調査に基づき、中重度者の受け入れを促進するための対策やデイケアの看護師に求められることについての考察が述べられた。

更に斉藤会長、浜村小倉リハ病院名誉院長のお二人を加え、熱いディスカッションが行われた。今回の改訂で大きく変わった点である医師の関わりについての議論が行われ、デイケアの医師には多くの重要な役割があることが示された。次いで参加への取り組みの実際と課題について議論が行われた。この他の多くの議論を踏まえて、これからのデイケアのあるべき姿や地域への関わり方が示されたが、最後に斉藤会長からデイケアが地域の一部となってしまうという考え方もあるのではないかということや、デイケアが期待されていると同時に試されているのでもあるということが指摘された。なお、このシンポジウムの全体については当協会ホームページに収録されていますのでご参照ください。

全国デイ・ケア協会広報委員 川上 千之
三友堂通所リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部部長

■第 32 回全国デイケア研究大会 2015 in 広島

漠然としていたことが、より具体的に認識することができた。

介護老人保健施設 イマジン 作業療法士　澤口 実生

今回のデイケア研究大会は、認知症をもつデイケア利用者と家族の支援の在り方やそのために存在する様々な職種・組織を知る良い機会となりました。また、具体的な取り組みや現在の法律のもとで介護・医療に求められる事等幅広く聞くなかで自身が働く現場というものを再認識する機会にもなりました。

私は、デイケアで働くOTとして在宅から通ってくる利用者と、施設で何をすれば本人と家族は穏やかに在宅生活を続けられるだろうと漠然とした不安を持っていました。しかし、各発表を聞くなかで私が施設の中から見える部分でしか利用者・家族を捉えていなかった事に気付きました。また、支援の方法も、自分が直接何を出来るかのみにこだわり狭く偏っていた事にも気付かされました。それらの気付きのなかでもっと広い視点で利用者・自分たちのサービスの両方を考えた時、漠然と何をすればいいだろうと感じていた部分が『もっと家の中を知り生活スタイルを知り家族との今までと関係性を知る必要がある』ことや『本人と家族の目標を、支援に関わる各専門職（ケアマネジャー、医師、介護士、看護師、相談員、福祉用具業者、セラピスト等）で共有し役割をしっかり担っていける事が非常に重要である』こと等具体的に認識する事ができたと思っています。

今後も今回のデイケア研究大会で良い刺激を受けた多くの見本をもとに、利用者・家族と向きあいながらデイケアでOTとしての役割を担っていきたいと思います。

理学療法士の視点だけでなく多職種の視点を取り入れて。

介護老人保健施設 せんだんの丘　理学療法士　阿部 紀子

理学療法士とは「病態」や「機能面」に目を向ける事が多く、プログラムの内容も機能訓練が多かったが、生活期を支えるチームの一員として、活動・参加に目を向けていく事も重要であると改めて気付く機会となった。また、活動･参加への支援を行っていく上で「真のニーズ」を把握することは難しいことだが、とても重要性が高いという面も改めて理解することができた。

近年、老健など福祉関連施設でのリハビリテーションに求める部分は高くなってきている。その中で今回の「生活行為向上加算」の新たな介入はとてもいい事だと思う。支援にかかる労力や時間はかかるが、多職種が連携し合い、目標の達成や自立支援に資する質の高いリハビリテーションの提供が出来ると感じた。現場から離れてより実践的なリハビリを行うことが出来ることは、今後の通所リハビリテーションの可能性の拡大が期待できると思う。これからは、理学療法士の視点だけでなく多職種の視点を取り入れ『その人らしさ』の生活を取り戻せるよう支援していきたい。

547 名の参加者を集め大盛況だった広島大会。

会員施設自己紹介

医療法人共和会 南小倉デイケアセンター

〒803-0861 福岡県北九州市小倉北区篠崎 1-5-1 www.kyouwakai.net/s_rehab/

皆さんこんにちは。私たちは福岡県北九州市にあります医療法人共和会南小倉デイケアセンターです。私たちは法人理念である、「人権を尊重する医療とケア」「健康を増進する医療とケア」「生活を創造する医療とケア」のもと、地域に根ざしたサービスのありかたを模索しながら奮闘している毎日です。

当センターの歴史は長く、老人保健法施行前に、「高齢者ケアは全ての人が直面する問題」として、院内デイケアや在宅への訪問活動、家族会の結成などの活動を実践してきました。また、昭和58年、老人保健法施行と同時に全国初の老人デイケアセンターとして「託寿館」を開設し、今に至っています。

現在は、対象者の利用目的やニーズに対応できるよう、高齢の方や医療的管理が必要な重介護の方を対象にした「託寿館デイケア」、壮年者の健康・機能の自己管理や社会参加への促しを目的とした「フィットネスデイケア」、退院・退所直後の不安定な時期にしっかりリハ対応ができる事を目的とした「短時間型デイケア」の三つを運営しています。(「託寿館」の名前はしっかり継承しています)

当デイケアの二大イベントは、初夏のデイケア旅行と年末の大忘年会です。

デイケア１泊旅行
熊本のホテルで記念撮影。この後温泉につかり大宴会！

どちらも「毎年これを楽しみにしている」､「旅行（忘年会）に行くために…」と、日々の生活に少しだけ特別な楽しみとドキドキをご家族と共有できる時間を大切にしています。

デイケア大忘年会
この日ばかりは、お洒落をして、ネクタイを締めて！

その他にも、外部からのボランティア受け入れや、季節ごとの催しなどを企画したり、十分とはいえませんが屋外でのリハ活動を行うなど、地域との繋がりを意識した対応を行っています。

今後は、地域包括ケアシステムの構築に向けて、デイケアにはより個別的なアセスメント力、ニーズに即応できる行動力が求められてくると思います。その時に選ばれる事業所を目指してこれからも頑張っていきたいと思います。

また、全国デイ・ケア協会の様々な活動を通して、より多くの事を学びながら実践につなげていきたいと思います。

外部からのボランティア受け入れや季節ごとの催しなどを企画したり屋外でのリハ活動を行うなど、地域との繋がりを意識した対応を行っています。

EVENT SCHEDULE 平成 28 年度上半期開催予定

今年度も企画が目白押しです。皆様の積極的な参加を心より願っております。詳細は協会ホームページ、お問い合わせは、kenshu@day-care.jp まで。

生活行為向上リハ関連			
研修会名	開催日	会場	定員
生活行為向上リハビリテーション研修会 in 大阪	5/14（土）～15（日）	CIVI 北梅田研修センター（大阪）	120 名
生活行為向上リハビリテーション研修会 in 福岡	7/2（土）～3（日）	南近代ビル貸会議室（福岡）	120 名
生活行為向上リハビリテーション研修会 in 東京	9/24（土）～25（日）	調整中（東京）	120 名
生活行為向上リハ　フォローアップ研修会 ～ リハマネジメント編（リハマネジメント・リハ会議）～	4/23（土）～24（日）	CIVI 研修センター秋葉原（東京）	終了
生活行為向上リハ　フォローアップ研修会 ～ 実践編（リハプログラム・修了への取り組み）～	6/26（日）	CIVI 研修センター秋葉原（東京）	100 名

看護職・介護職			
研修会名	開催日	会場	定員
通所リハ計画　立案・実践研修会 in 札幌	7/10（日）	アスティ 45 12F（札幌）	80 名
通所リハ計画　立案・実践研修会 in 仙台	9 月（日付未定）	調整中（仙台）	80 名

全職種			
研修会名	開催日	会場	定員
通所リハ 認知症研修会	5/21（土）	AP 東京 八重洲通り（東京）	100 名
全国デイ・ケア研究大会	7/22（金）～23（土）	東京ベイ幕張（千葉）	1000 名
通所リハ 重度者対応研修会 in 千葉	7/21（木）	調整中（千葉）	80 名
第 4 回 デイ・ケアスキルアップセミナー in 東京	調整中	調整中	調整中

経営・運営			
研修会名	開催日	会場	定員
短時間通所リハ移行推進セミナー	4/13（水）	八重洲倶楽部 第 2-3 会議室（東京）	終了
短時間通所リハ移行推進セミナー	6/18（土）	八重洲倶楽部 第 2-3 会議室（東京）	30 名

平成 27 年度活動実績

（）は当協会推薦受講者　テーマ、内容等は協会ホームページをご覧ください。

■ 短時間通所リハビリテーション移行推進セミナー		
H28/2/11	AP 東京八重洲通り	73 名
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 金沢		
H28/1/22 ～ 23	TKP ビジネスセンター	78 名（11 名）
■第 3 回デイ・ケアスキルアップセミナー		
H28/1/16 ～ 17	AP 東京八重洲通り	132 名
■ 3 団体合同研修会		
H27/11/14 ～ 15	AP 西新宿	149 名
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 札幌		
H27/10/10 ～ 11	アスティ 45	106 名（16 名）
■リハビリテーション・ケア合同研究大会　神戸　2015		
H27/10/1 ～ 3	神戸国際会議場・同展示場	465 名
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 高松		
H27/9/26 ～ 27	高松センタービル	108 名（17 名）
■通所リハビリテーション医師向け研修会 in 福岡		
H27/8/29	博多バスターミナル	36 名
■通所リハビリテーション計画立案・実践研修会		
H27/8/22	AP 東京八重洲通り	63 名
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 仙台		
H27/7/30 ～ 31	東北福祉大学	143 名（17 名）

■第 32 回全国デイ・ケア研究大会　2015 in 広島		
H27/7/24 ～ 25	リーガロイヤルホテル広島	547 名
■看護・介護職のための生活行為向上リハ研修会		
H27/7/23	リーガロイヤルホテル広島	63 名
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 沖縄		
H27/7/18 ～ 19	大浜第二病院	112 名（10 名）
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 宮崎		
H27/7/11 ～ 12	ニューウェルシティ宮崎	194 名（36 名）
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 札幌		
H27/6/5 ～ 6	TKP ガーデンシティ札幌駅前	150 名（26 名）
■通所リハビリテーション医師向け研修会		
H27/5/23	AP 東京八重洲通り	127 名
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 名古屋		
H27/5/14 ～ 15	TKP 名古屋栄カンファレンスセンター	349 名（64 名）
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 埼玉		
H27/4/30 ～ 31	県民健康センター	245 名（49 名）
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 福岡		
H27/4/18 ～ 19	南近代ビル	322 名（64 名）
■生活行為向上リハビリテーション研修会 in 東京		
H27/4/11 ～ 12	TKP 日本橋	259 名（50 名）

Pick Up!

第 34 回 全国デイ・ケア研究大会 2016 in 千葉

「活動」と「参加」
～どう評価・計画し、いかに介入するか～

会期：平成 28 年 7 月 22 日（金）13 時～平成 28 年 7 月 23 日（土）13 時
会場：アパホテル＆リゾート〈東京ベイ幕張〉（千葉市美浜区ひび野 2-3）
主催：一般社団法人 全国デイ・ケア協会
主管：医療法人社団保健会 東京湾岸リハビリテーション病院

「活動」と「参加」の実践
―ここに来ればすべきことがわかる研究大会を目指して―

平成 27 年度の介護報酬改定から 1 年以上が経過いたしました。平成 27 年度の介護報酬改定では「活動」と「参加」に焦点を当てたリハビリテーションの推進が求められており、これまでの「心身機能」に偏ったリハビリテーションから「心身機能」、「活動」、「参加」の要素をバランスよく働きかける質の高いリハビリテーションの実践が不可欠となっております。

そういった中迎える本研究大会では、様々な専門分野でご活躍される講師陣を招き、在宅リハビリテーションにおける実践について学べる多くの講演を揃えさせていただきました。また「活動」と「参加」に焦点を当てた質の高いリハビリテーションを提供するためには、充実したリハビリテーションマネジメントを私たちは実践しなければなりません。本研究大会のグループワークでは、「模擬リハビリテーション会議」を実施いたします。グループワークの参加者のみならず、オブザーバーとして見学は自由なスタイルで行う予定ですので、多くの方にご参加いただき、明日に活かせる学びの場となれば幸いです。

大会の最後にはシンポジウムとして「生活行為リハビリテーションの実践 －私たちはこうしている－」と銘打ち、生活行為向上リハビリテーションを実施していく上での工夫や実践してきたからこそ見えてきた課題について参加者全員で考えていける場にしていきたいと思います。

末筆ではございますが、「活動」と「参加」の実践について、「ここに来ればすべきことがわかる」研究大会を目指して参りますので、是非とも多くの参加者にご来場いただきたく存じ上げます。

第 34 回 全国デイ・ケア研究大会 大会長 近藤 国嗣
（東京湾岸リハビリテーション病院 院長／一般社団法人 全国デイ・ケア協会 理事）

協会事務局　一般社団法人　全国デイ・ケア協会事務局
〒 350-1173　埼玉県川越市安比奈新田 283-1
医療法人真正会　霞ヶ関南病院内
TEL：049-237-0700　FAX：049-237-0701
E-mail : info@day-care.jp

大会事務局　医療法人社団保健会　東京湾岸リハビリテーション病院
〒 275-0026　千葉県習志野市谷津 4-1-1
TEL：047-453-9000　FAX：047-453-9002
E-mail : daycarechiba@wanreha.net

運営事務局　株式会社プランニングウィル
〒 113-0033 東京都文京区本郷 4-1-5 石渡ビル 6F
TEL：03-6801-8084　FAX：03-6801-8094
E-mail：34daycare-chiba@pw-co.jp

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

介護・デイケアサービスの追求

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は 1994（平成 6）年、全国のデイケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供等を目的とし開設、20 年にわたり活動を続けて参りました。

近年、通所系サービスの役割は急速に高まり、介護予防・認知症疾患・重介護者等、様々な対象者層へのリハ・ケアの提供が求められるようになってきました。

制度的には多くの課題を抱える中、運営の適正化と質の向上、関係機関との連携、住民への啓発等をより公的な立場で取り組んで参ります。地域包括ケアシステムの構築が推進される中、病気や障害のある人たちが尊厳をもってその人らしく生きていくことの出来る社会を目指し、通所系サービスの組織としてその活動に取り組んでいく次第です。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局
住所：〒 350 － 1173 埼玉県川越市安比奈新田 283 － 1 霞ヶ関南病院内
電話：049（237）0700　FAX：049（237）0701
e-mail：info@day-care.jp

協会認定制度のご案内

当協会では、研修体制の整備とともに認定のあり方について検討を重ね、平成 25 年度より協会認定制度を開始しました。通所系サービス（通所介護・通所リハビリ等）の質の向上、利用者の自立支援、地域住民の自助・互助活動への支援を行い、地域リハビリテーションの普及・啓発を促すことを目的に、管理者及び事業所を対象とした協会認定制度を創設いたしました。

認定管理者とは、「通所系サービス（通所介護・通所リハビリ等）における管理者として必要な専門的知識・経験・技術を有することを認められた者」としました。

認定事業所とは、「事業所として満たすべき基準をはじめ、取り組みや特色・方針が認められた施設」としました。

詳細は、http://www.day-care.jp/image/nintei.pdf でご確認ください。

http://www.day-care.jp

編集後記

通所リハビリの役割がますます注目される中、本号発刊にいたりました。ご協力頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。会長の作品（表紙）をはじめ、鮮やかな現物を目にし、とても感慨深い創刊号となりました。ご執筆頂いた方々には、お忙しい中無理なお願いもいたしましたが、それもこの発刊をもってお許しいただければ幸いです。

そして会長の“message”にある通り、編集作業の最中に起こった平成 28 年熊本地震。様々な葛藤はありましたが、議論の結果、被災された方々にエールを届ける意味でも、一日も早い発刊を目指しました。

デイケアができる事、協会ができる事を今後も多くの方々に発信してゆきます。これからのデイケアニュースをよろしくお願いいたします。

全国デイ・ケア協会　広報委員会委員長 加藤 誠

デイケアニュース 01号　2016年6月発行 編集／発行　全国デイケアニュース 広報委員会